

地域と未来をつなぐ“ひょうご基幹道路ネットワーク” シンポジウム 播磨会場 開催結果



開催場所：令和2年11月12日（木）14:00～16:00

場所：稲美町立文化会館コスモホール

参加者：約250名

来賓：○播磨臨海地域道路整備促進国会議員連盟

会長 渡海紀三朗 様(代理)、

副会長 松本剛明 様(代理)、濱村進 様(代理)

事務局長 末松信介 様(代理)

参議院議員 片山大介 様(代理)、加田裕之 様(代理)、高橋光男 様(代理)

○播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟

兵庫県議会議員 迎山志保 様、岡つよし 様、五島壮一郎 様、松井重樹 様

○国土交通省近畿地方整備局

姫路河川国道事務所 副所長 石鍋一文 様 他

1 主催挨拶

稲美町長 古谷 博

- ・播磨臨海地域道路の『内陸・加古川ルート』には、稲美の発展に大きく期待をしている。
- ・基幹道路ネットワークの重要性、播磨臨海地域道路の早期実現に向けて、さらなるお力添えを賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。



古谷町長

2 来賓挨拶

県議会議員 岡 つよし 様

- ・播磨臨海地域道路は、今後のハリマの発展を支えるための重要な道路である。
- ・皆様と気持ちを一つにして、ハリマを盛り上げていきたい。



岡山県議会議員

3 基調講演「2050年の道路の景色～道路ネットワーク整備と自動運転の視点から～」

立命館大学准教授 塩見 康博 氏

- ・国土交通省では、自動運転がさらに普及することを目指して、2019年から「道路空間に関する検討会」を開催し、将来の道路空間のあり方を検討している。
- ・国土の「骨格」である高速道路、拠点間を結ぶ「回廊」としての公共交通機関、その地域のコミュニティをつなぐ「往来の場」としての道路空間、これらが有機的に結合されたのが、2050年の道路の景色であり、それらを支えるのが自動運転などの技術である。
- ・2050年にはインフラや技術が発展することにより、人間同士が触れ合いを大切にしたいまちが形成されることを願う。



塩見准教授

4 意見発表「わたしたちが考えるハリマのみち」

兵庫県立東播工業高校 土木科 2年生

- ・「ハリマのみち」は大型車両が多いことが特徴で、通学時は危険を感じることもあり、対策が必要である。
- ・播磨臨海地域道路には、一般道における渋滞解消や大型車両の交通転換に大きく期待できる。
- ・安全な「ハリマのみち」のために、早期完成を希望する。



5 パネルディスカッション

「ハリマの景色が変わる～播磨臨海地域道路を活用した地域の将来像～」

コーディネーター 八木 早希 氏 (フリーアナウンサー)
パネリスト 大西 和樹 氏 (稲美町商工会長)
佐藤 大輔 氏 (JA兵庫南にじいろふぁ～みん所長)
中島 直實 氏 (播磨町自治会連合会長)
伊藤 裕文 (兵庫県東播磨県民局長)



○大西氏 日の出みりんは、北海道から沖縄まで、稲美町から配送しており、物流の観点からも播磨臨海地域道路には期待している。

企業物流面ではトラックドライバーの高齢化と不足が課題である。トラック隊列走行などの自動運転技術により、効率的に配送できるシステムが構築されれば、播磨地域の持続的発展に寄与できる。

コロナ禍でも、人々の生活を維持するために、物流は止まることなく動いており、今後、物流の重要性がさらに高まっていく。



大西会長

○佐藤氏 都市近郊農業として、播磨北部(加古川市北部や稲美町)で栽培された農産物を播磨臨海部の消費者に運ぶのが当農協の大きな役割である。農協や直売所へは、ご高齢の生産者が運搬しており、都市近郊の慢性的な渋滞により、危険にさらされている。

播磨臨海地域道路が整備されると配送エリアが拡大し、都市近郊農業の発展にも期待できる。



佐藤所長

○中島氏 播磨町は、国道に接続する南北の道路から住宅内の生活道路まで、渋滞が多発しており、危険箇所がたくさんある。新たな道路が整備されることで、渋滞が解消され、安心・安全な交通が確保される。

災害発生後の道路の通行確保は、災害を軽減できる大きな手段であり、災害に強い道路網の整備により、住民の安心・安全の取り組みに寄与できる。

災害にも対応できる播磨臨海地域道路の早期実現を強く望む。



中島会長

○伊藤 今回のシンポジウムを通して、改めて、播磨臨海地域道路の早期事業化に向けて頑張らなければならないと痛感した。

播磨臨海地域道路は、線で道路を考えるのではなく、住宅産業、農業等を絡めた、面でまちづくりを考えなければならない。

ポストコロナ社会では、想定を超えるスピードで社会は変化した。働き方・学び・暮らし・社会のあり方を見直すチャンスである。



伊藤局長

○八木氏 地元を中心に皆さんの声が高まっており、播磨臨海地域道路が事業化に向けて動いている。当事者として地元がどれだけ声を上げるかが重要と改めて感じた。

今回のシンポジウムにより、播磨臨海地域道路の早期実現に一步近づけたなら幸いである。



八木氏

6 閉会挨拶

兵庫県技監 八尋 裕

- ・ 県としては、国に対して整備促進の働きかけや国との適切な役割分担についての検討など、必要な取り組みを進めていく。